

砂の盃



R18

砂の盃



確かでない未来<sup>あ</sup>を  
それでも信じたいと思うから  
こんなに胸が痛むんだ

## 砂の盃



——で こっちに行くと  
商店街の方に出るんだ

ふーん

じゃあ面白い物はそこで  
すればいいのかな？

そうだね  
良い店も多いからね



ソル・シエールって広くて  
緑も多くていい所だな

ずっと狭いリムだったから  
広すぎて落ち着かないくらいだ

昔は今の倍くらいの  
大陸だったのよ

ちよっといじったら  
半分落ちちゃったけど

…: 疲れたから私帰るわ  
アヤタネ 後よろしくね

…

あ  
ちよっと母さん！



いや...  
まあ...

母さん人ごみ  
嫌いだから

ごめんね  
本当なら母さんが案内  
してあげなきゃいけないのに

...



え？

...試されてる  
って思ってる？



分かってるとは思うけど  
簡単には人間を  
信用しないからね

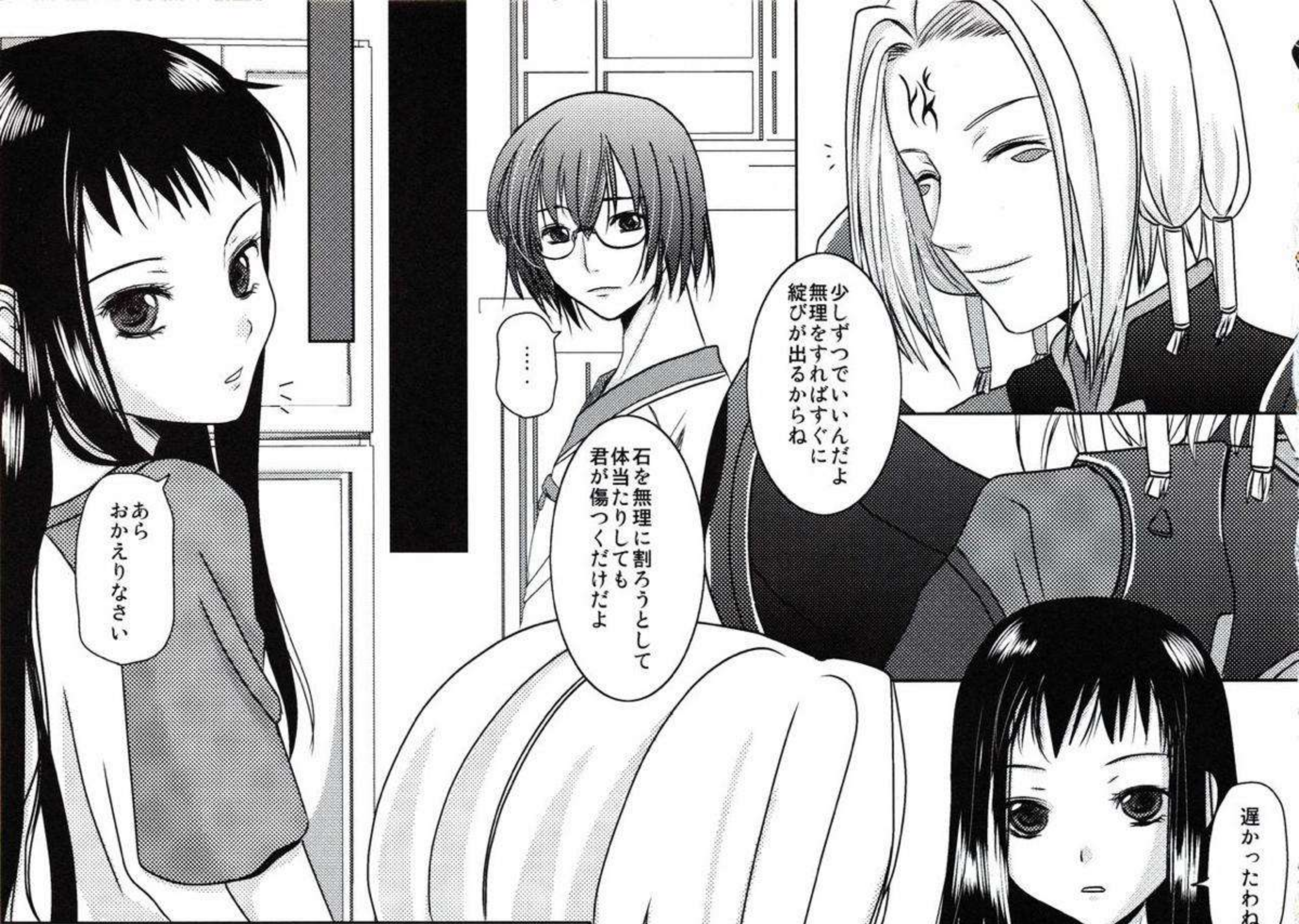
あの人は

...ああ

そうだ

コスモスフィアで見聞きしたもので  
彼女の何もかも分かっているような  
気持ちになってたけど

実際は知らない事の方が  
まだまだ多くて

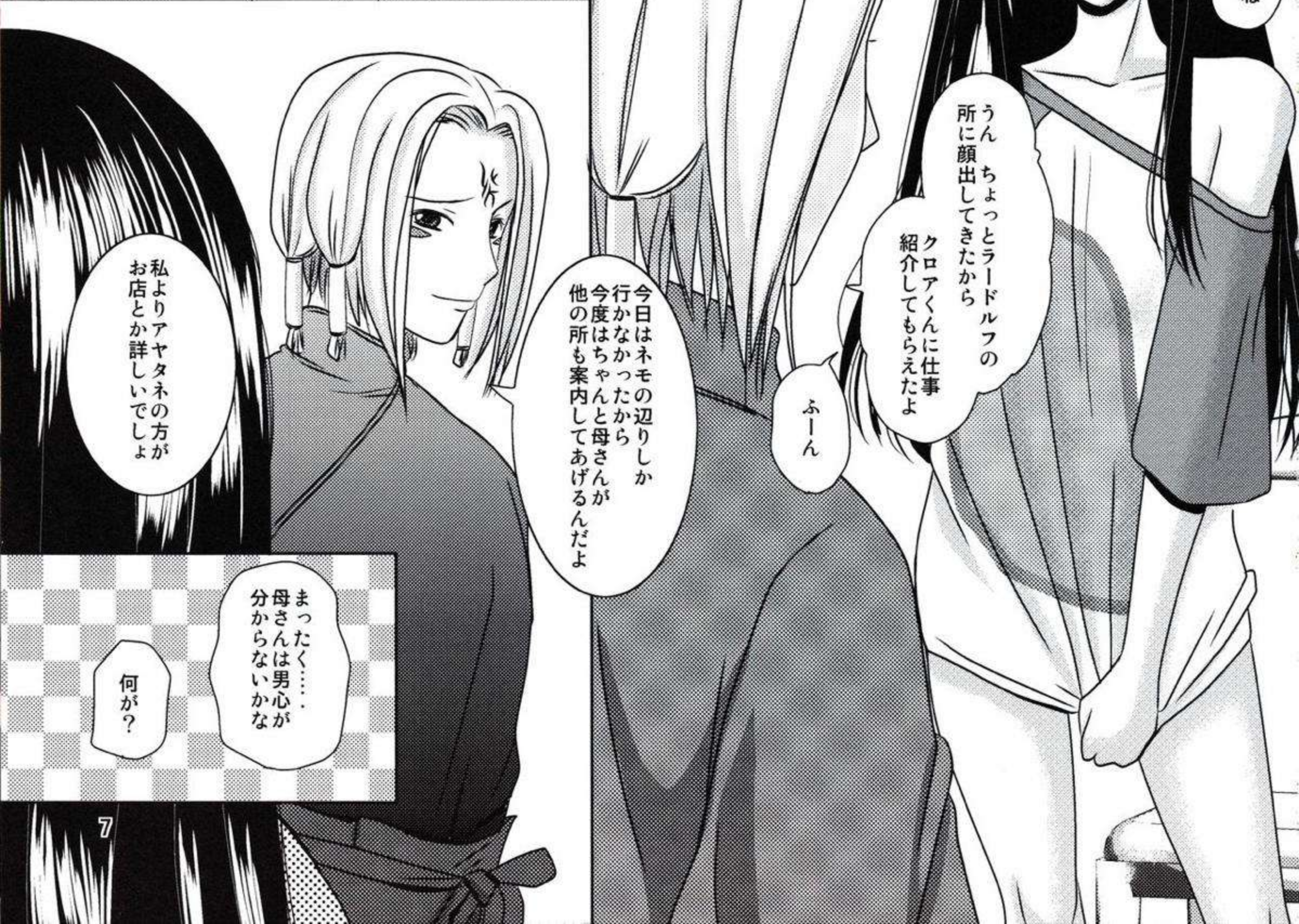


少しずつでいいんだよ  
無理をすればすぐに  
綻びが出るからね

石を無理に割ろうとして  
体当たりしても  
君が傷つくだけだよ

あら  
おかえりなさい

遅かったわね



うん ちょっとラードルフの  
所に顔出してきたから

クロアくんの仕事  
紹介してもらえたよ

ふーん

今日はネモの辺りしか  
行かなかったから  
今度はちゃんと母さんが  
他の所も案内してあげるんだよ

私よりアヤタネの方が  
お店とか詳しいでしょ

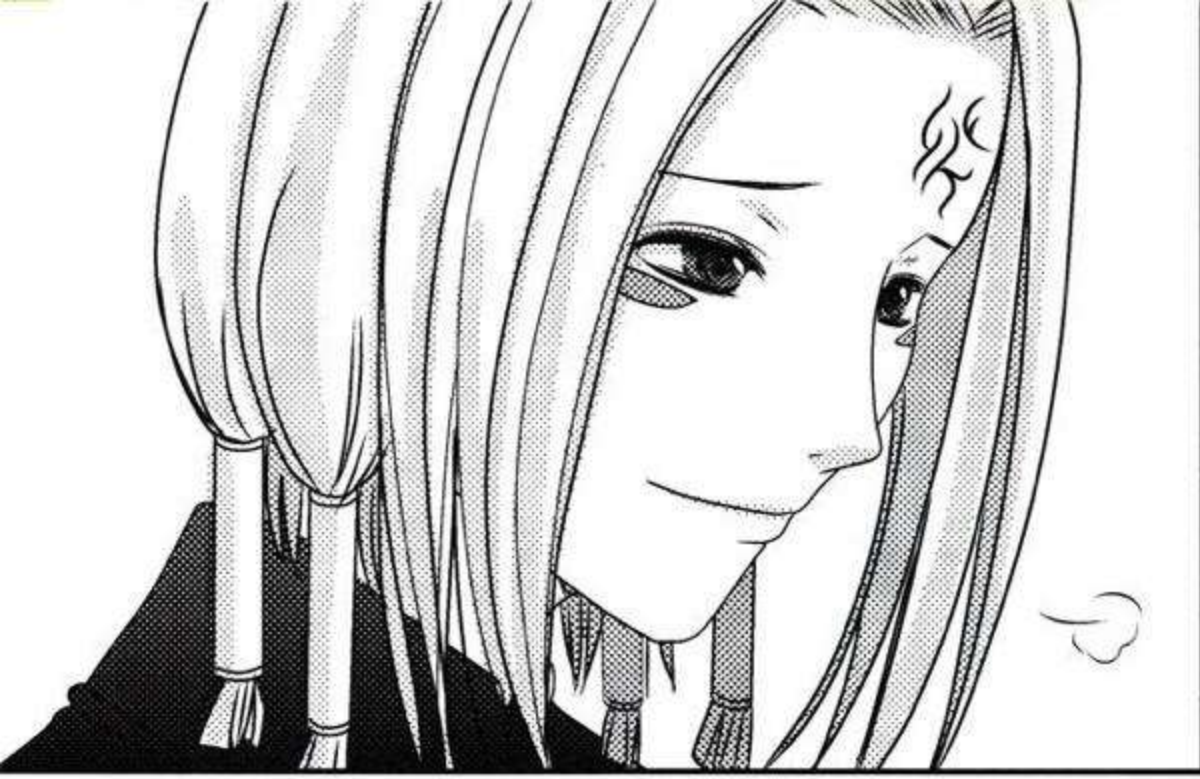
まったく……  
母さんは男心が  
分らないかな

何が？

…別に…  
そう言うわけじゃ…

…街の人たちに  
会うのは怖い？





そんなの  
分からないわ……



今夜はクロアくんが  
ゴハン作ってくれるそうだから  
あんまり遅い時間  
おやつ食べちゃダメだよ



……そう  
良かったわね

教会の辺りに良さそうなお店いっぱいあったからさ  
今度一緒に遊びに行かないか？



俺来週からエル・エレミア  
教会の仕事決まったよ  
何か街の周辺警備だつて

あ  
ミユール





…そっか。



…人が多  
い所  
から  
好き  
じゃ  
ない  
から



難しいな…  
ただ「好き」って気持ちだけでは  
上手く回っていかないんだもんな…

何か全然  
「お付き合いしてます」  
って感じじゃないんだけど…



…



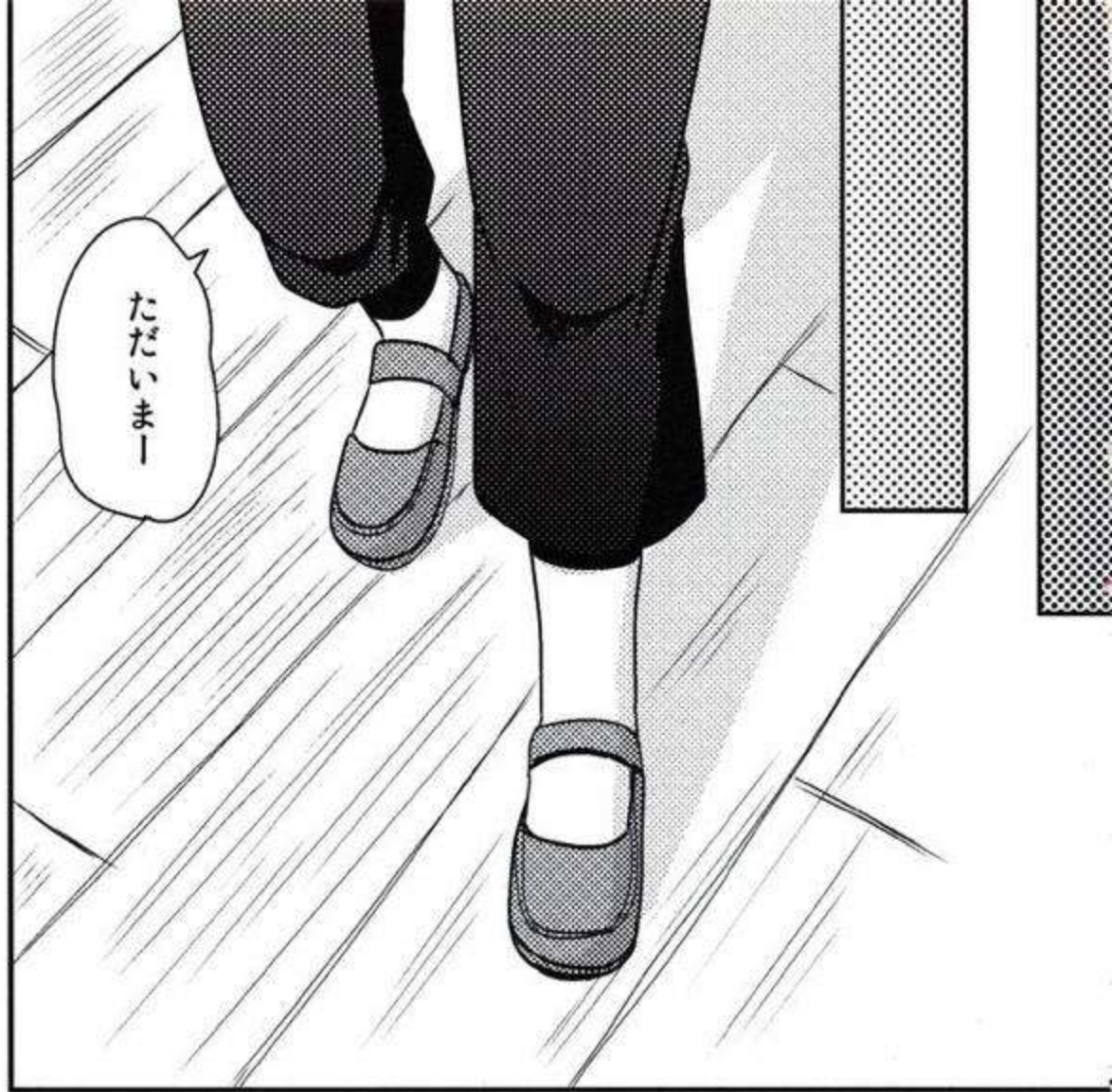
…はあ。

…悩んでも  
仕方がないか  
メシ作ろっと

君が傷つくだけだよ



あれ?  
誰も居ないのか?



ただいまー

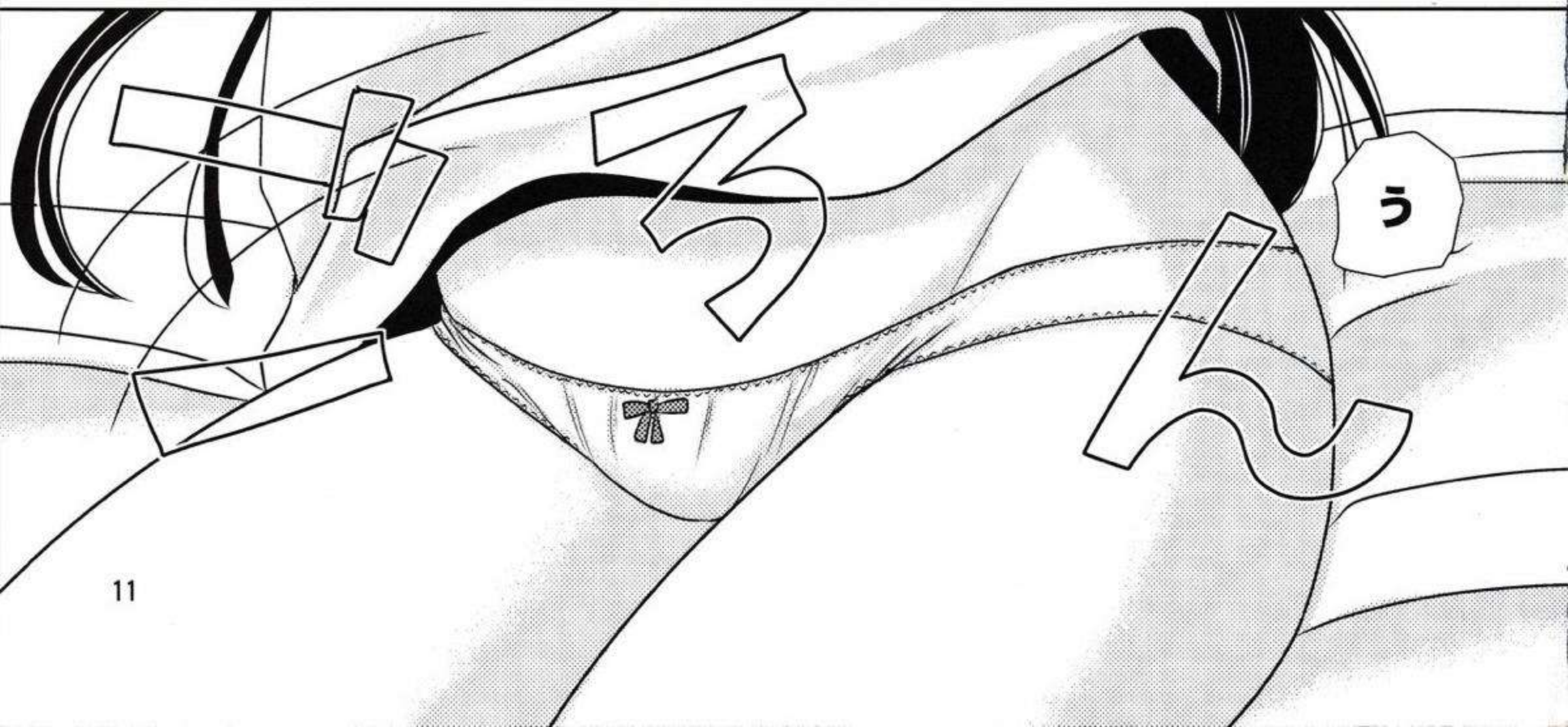


まーたこんな  
格好で寝て

風邪ひく……



ミュール?



う



もきもき

ん...



...



...ったく...

若い男が出入りする家で  
ここまで無防備なのは  
どうかと思うぞ

はあ...



赤ん坊みたいだな

ん...

...ね

アヤタネ...



そう言えばいつも丸まって寝てんのなお前...



いざよみ...



え...

怖い...



キ...



ん?

ん...



ミユール...



早番だったからなアヤタネは?

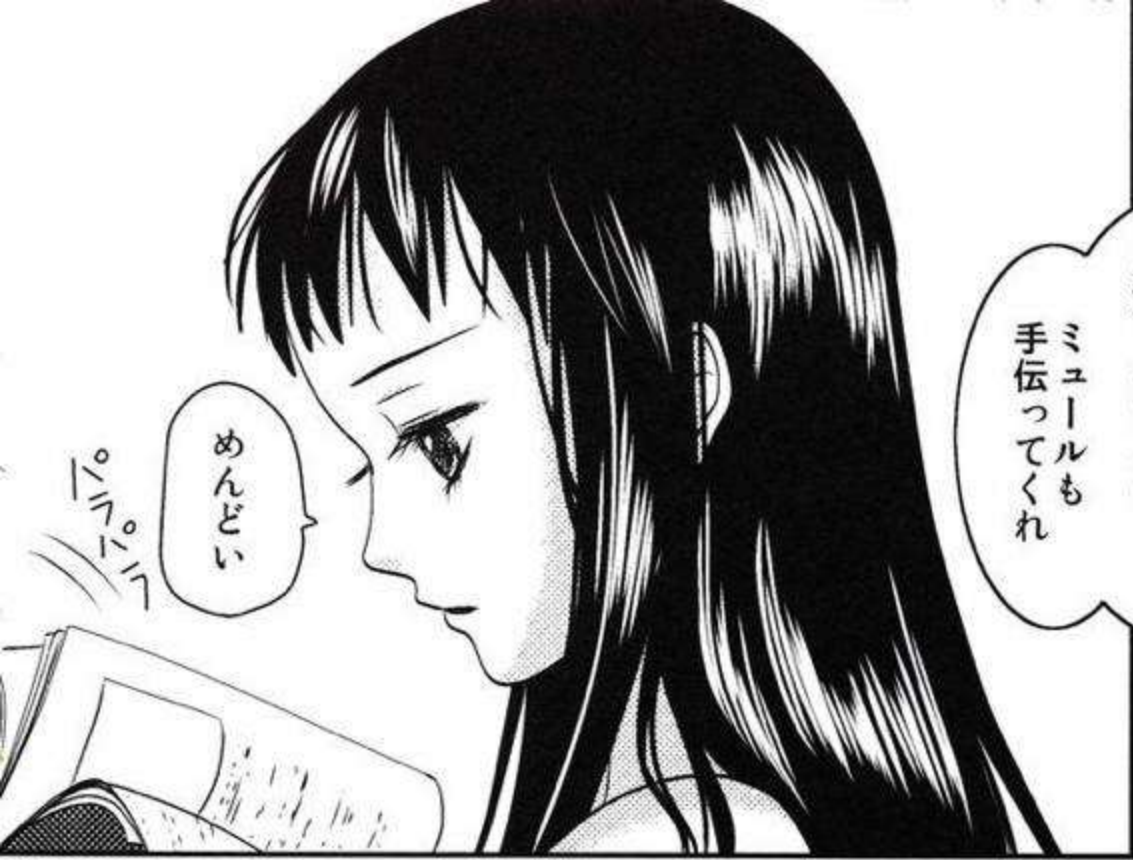
ふあ...  
早かったわね...



...ただいま



...クロア...?



めんどい

そっか じゃあ夕飯の  
用意しないと  
ミユールも  
手伝ってくれ



めんどいとか  
言うな

いたっ



お昼前に急に呼び出されて  
シュレリアの所に行ったわ  
十日ほど留守にするから  
あなたによるしくって



もう……  
何でまたあんな  
夢ばっかり……



台所で  
待ってるからな



うーん

献立どうしようかな  
食材はアヤタネが買って  
来たのが結構あるか……

ハッ!?

ちょっと待て  
アヤタネが留守って事は  
しばらく二人っきり!

で?  
何を手伝って?



ちょっと  
何言ってるか分かんない

とりあえず利き手と  
逆の手で箸を使って豆を  
隣の皿に移してくれ

……えー  
と……



とは言うものの

俺が無駄に身構えて  
しまっただけで

ミユールは今までと  
特に変わりなく――

分かってるけどさ……  
俺の気持ちの方が強いだけなんだって

そもそもあんなに  
人間の事憎んでたのに

そんな簡単に  
変わるわけないよな

何？

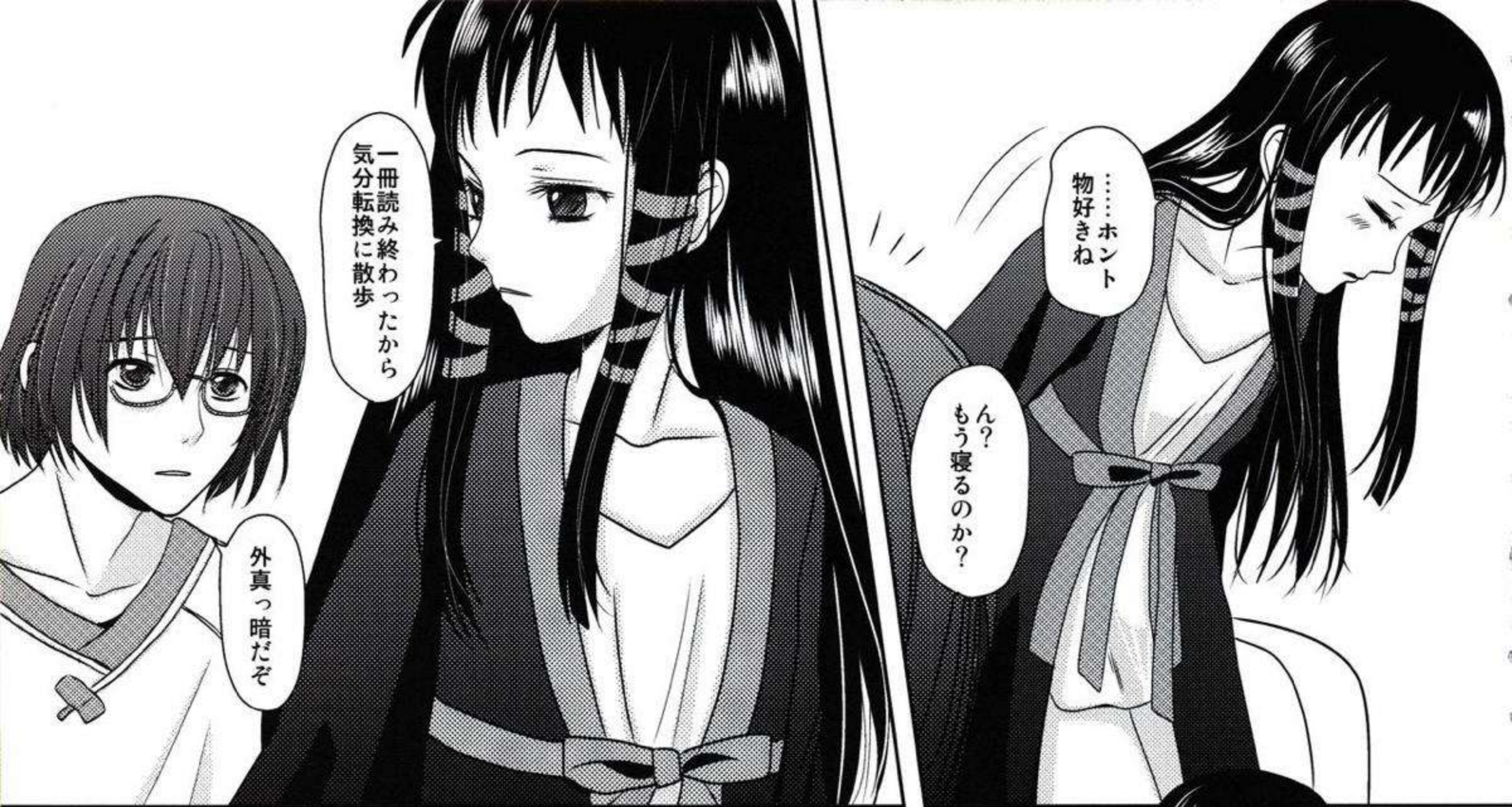
ん？  
……綺麗だなと  
思っただけ

ああそう

……もうちよっとさ  
喜ぶとか照れるとか  
ないのか？

そんな事言われても……  
だったら何でもっと  
可愛い反応してくれる  
女の子選ばなかったのよ

正論言うな  
それでも好きに  
なっちゃったんだから  
しょうがないだろ

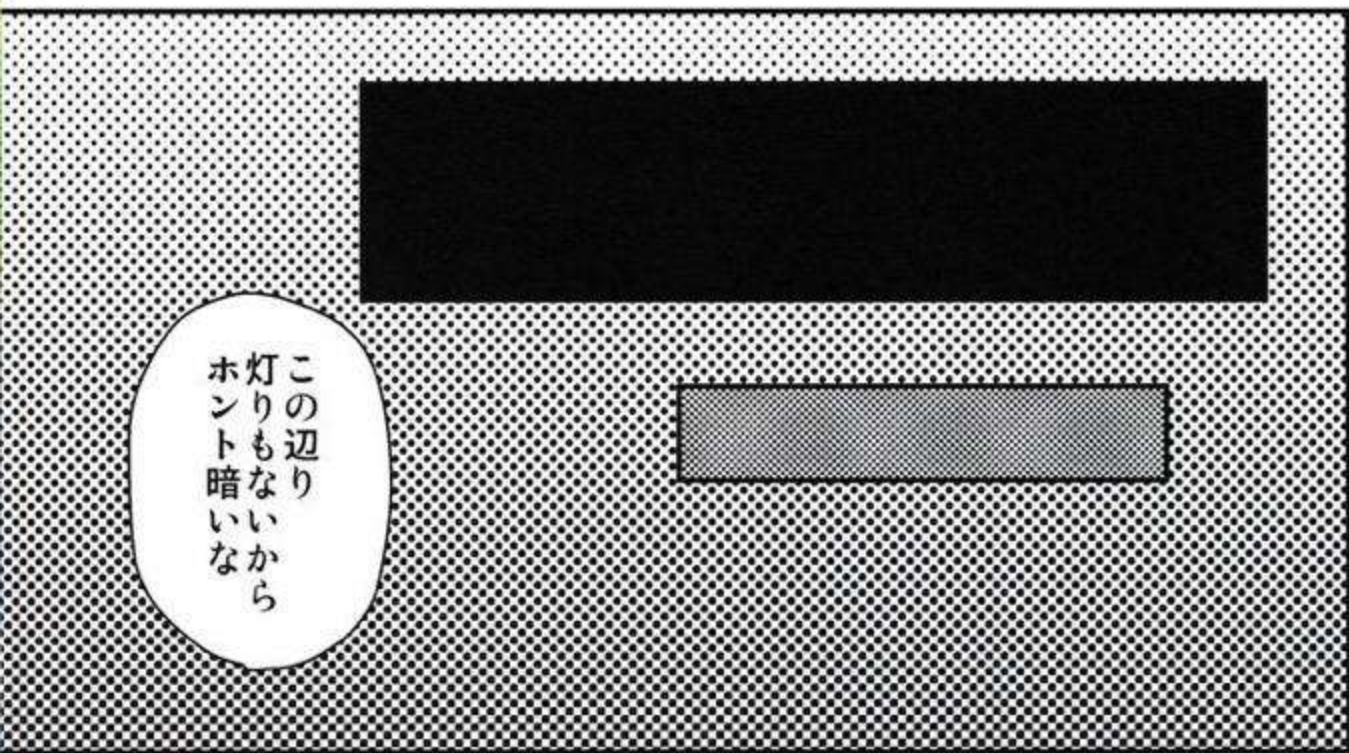


一冊読み終わったから  
気分転換に散歩

外真っ暗だぞ

……ホント  
物好きね

ん？  
もう寝るのか？



この辺り  
灯りもないから  
ホント暗いな



暗い所怖いなら  
帰れば？  
て言うか何で  
ついてくるのよ

女の子の一人  
歩きは危ないだろ



夜の方が人と  
会わなくて済むでしょ

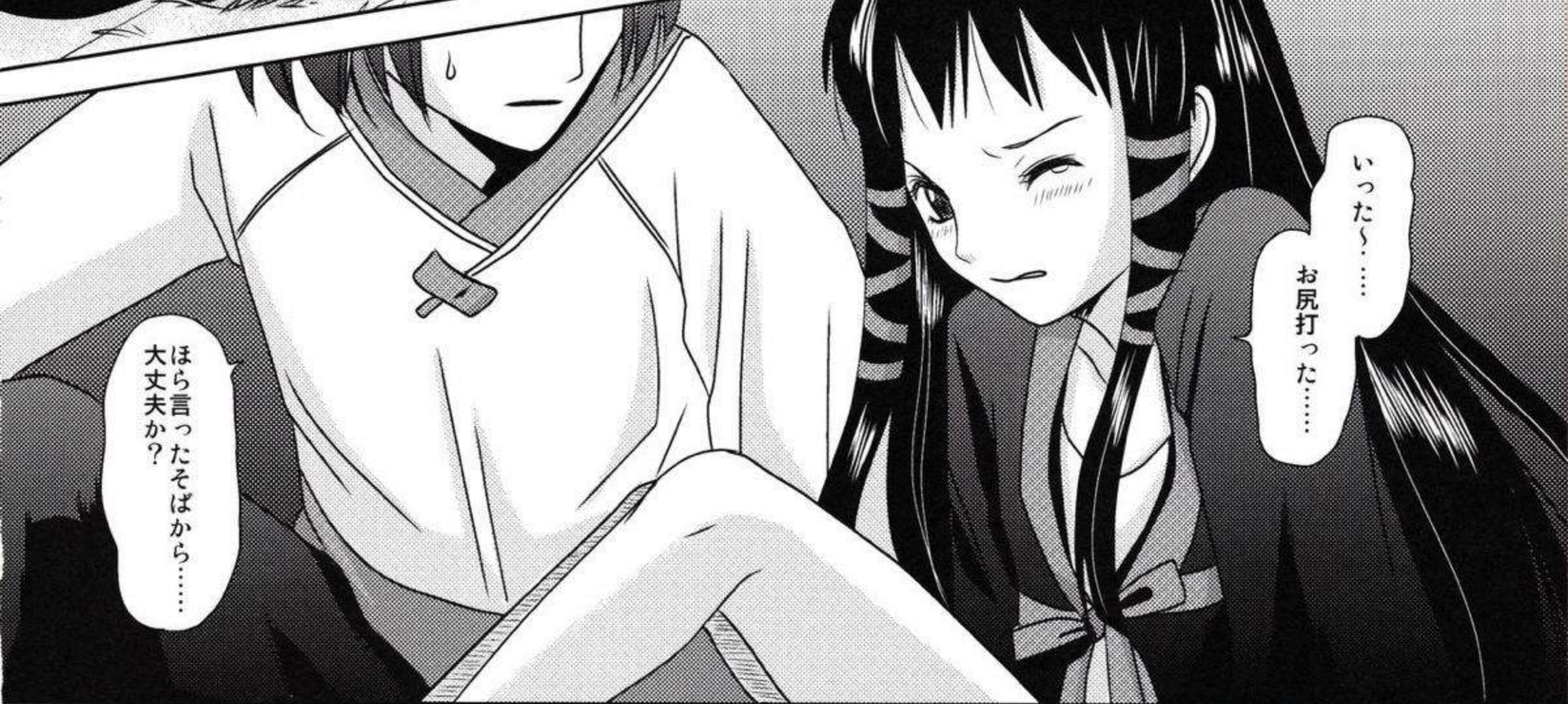




ギヤンッ!

あおい  
そこ段差……

平気だってば



ほら言ったそばから……  
大丈夫か?

いったろ……  
お尻打った……



?

あ……

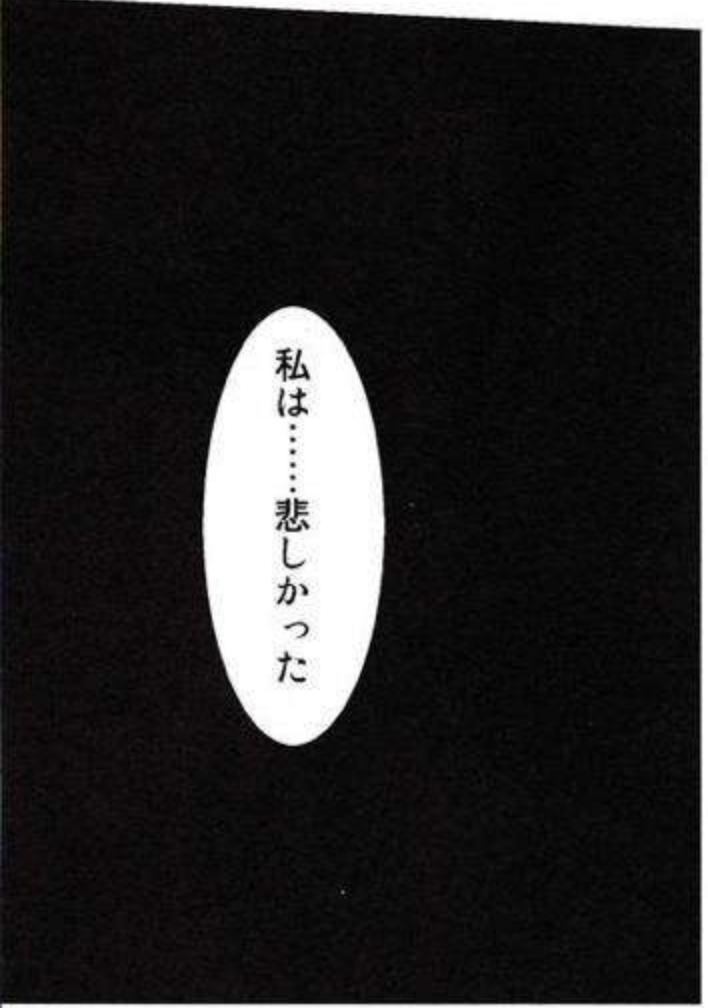
星……



ああ……



……綺麗な



私は……悲しかった



どんな気持ち  
だったんだろ  
……憶えてないな

クロアは……  
初めて空を見た時  
どんな気持ちだった……？



……こっちに帰って  
から  
昔の夢ばかり見るの……



……



青くて高くて大きな  
天井なんて……  
どこにもなかった……



クロア……？



もう済んでしまった  
事なのに……  
馬鹿みたい……



……嫌な思い出を  
消せるくらいの思い出  
作ろうとしたらあと  
どれくらいかかるかしら

最後まで付き合う  
覚悟は出来てるから



……いい思い出は  
これから作って  
いけばいいよ



……あなたの手に触ったの  
今日が初めてね

ああ……  
言われてみれば確かに



じゃあ今日は  
初めて手をつないだ記念日な  
これでひとつ思い出してきた

いい思い出に  
なると思う？

そうなるように  
努力する



…あなたは…

最後まで  
離さないでね…



ミユール？

私もういらないうって  
言うまで…  
ちゃんと傍に居るのよ…



…星が見えないわ



…ああ



はいよ兄ちゃん  
オマケしといたからね



…明日も二人で  
星見に来ような

俺は彼女のいい思い出になれるかな



…



教会や街中で  
彼女の噂が耳に入ってくる



時々



ありがとう

また  
来てくれよ



ミユールがあまり  
外出しながらないのは  
その辺りも理由の一つなんだろう



おかえりなさい

だけど――



コスモスフィアでの出来事と  
人伝に聞いた話でしか知らない彼女の過去

何もかも理解して  
受け止めて支えてやれる程  
俺は強い人間じゃないって事は  
痛いくらい分かってる



…何かあったの？



ん？  
ちょっと忙しかったから  
疲れただけ

どうしたの  
暗い顔して

…ただいま



…何もないよ

あ

グ  
ツ



…さ  
早く夕食の準備しないとな  
腹減ってるだろ？

俺がミユールを支えてやらなきゃいけないのに  
落ち込んでるのを見抜かれてるようじゃ



あーあ  
今日も星見に  
行けなかった



……まだ雨降ってる……



うなされたり  
してないかな……

ミユールはもう  
寝ちゃったかな……



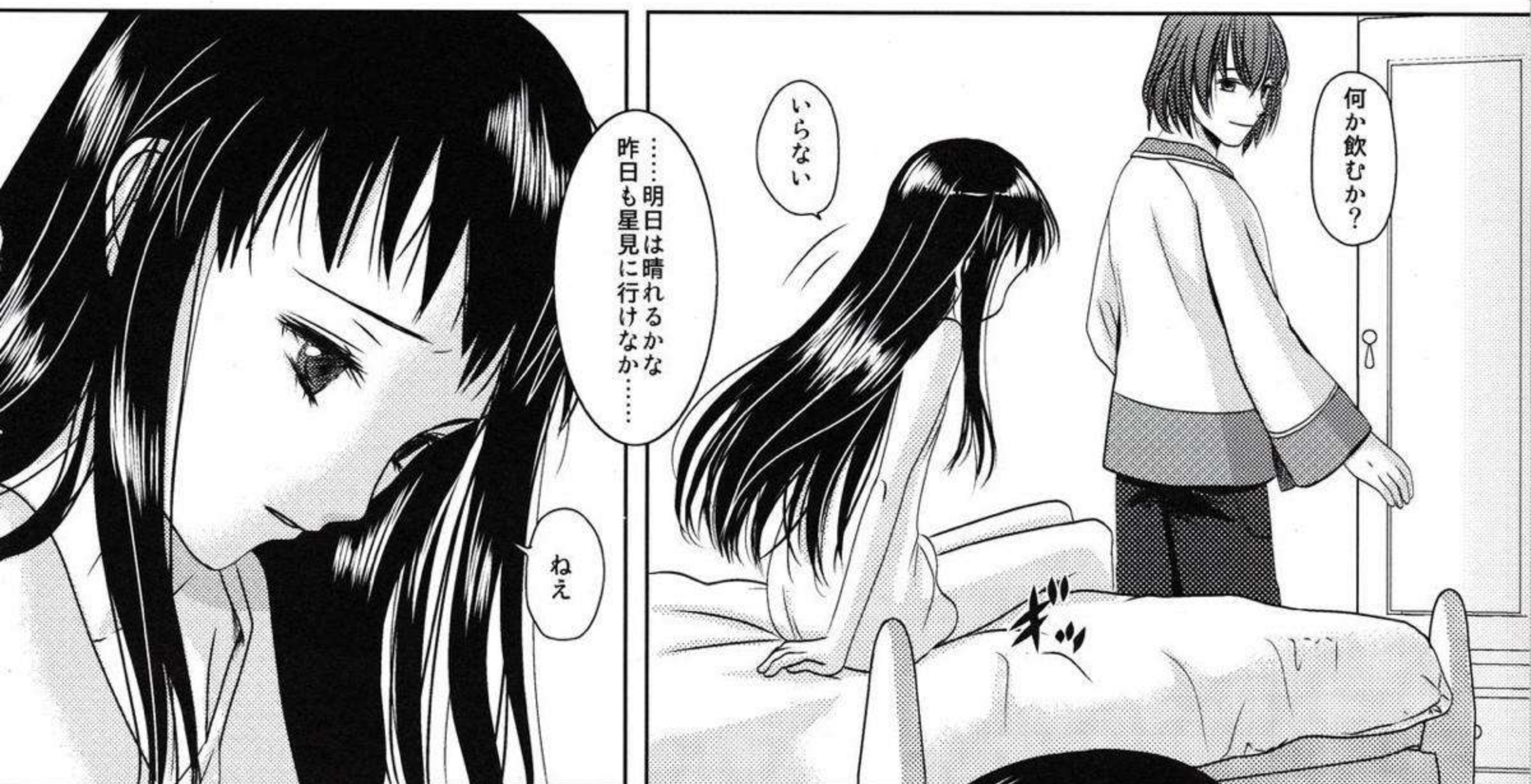
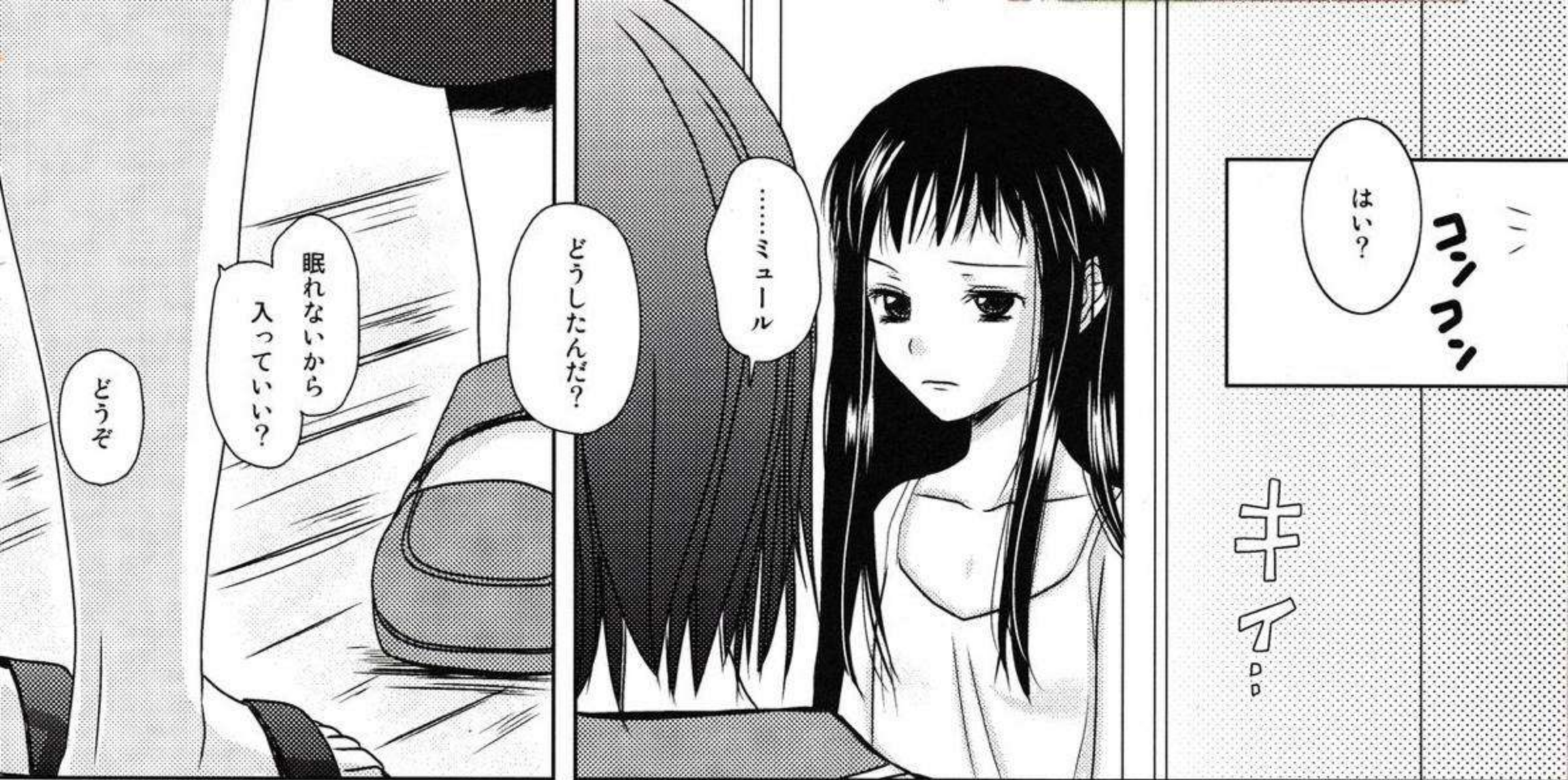
何で……  
ミユールは何もしてやれない俺の  
傍に居てくれるんだろ……



俺は彼女のために何がしてやれる？  
どうすればミユールは  
心からの笑顔を見せてくれる？

今までよりずっと近くに居るはずなのに  
どうしてこんなに不安で  
もどかしい気持ちになるんだらう







私のして来た事が嫌でも  
耳に入って来るでしょう……

……ソル・シエールに  
居れば……

誤摩化さないで

何言って……



……あなたが無理して  
笑ってるの見てると……  
私まで苦しくなるもの……

ちがっ……  
そんな事!

怖じ気づいたりも  
嫌悪感を抱いても  
当然だわ



違う!

違う……



俺はただ……  
ミユールの笑顔が  
見たいから……

俺の傍でいつも  
笑ってて欲しいから……



なのに何もして  
やれなくて……  
もうどうしていいか  
分かんないよ……!!

クロア……

何でだろ……

こんなに好き  
なのに何で……

お前のこと助けて  
やれないんだろ……



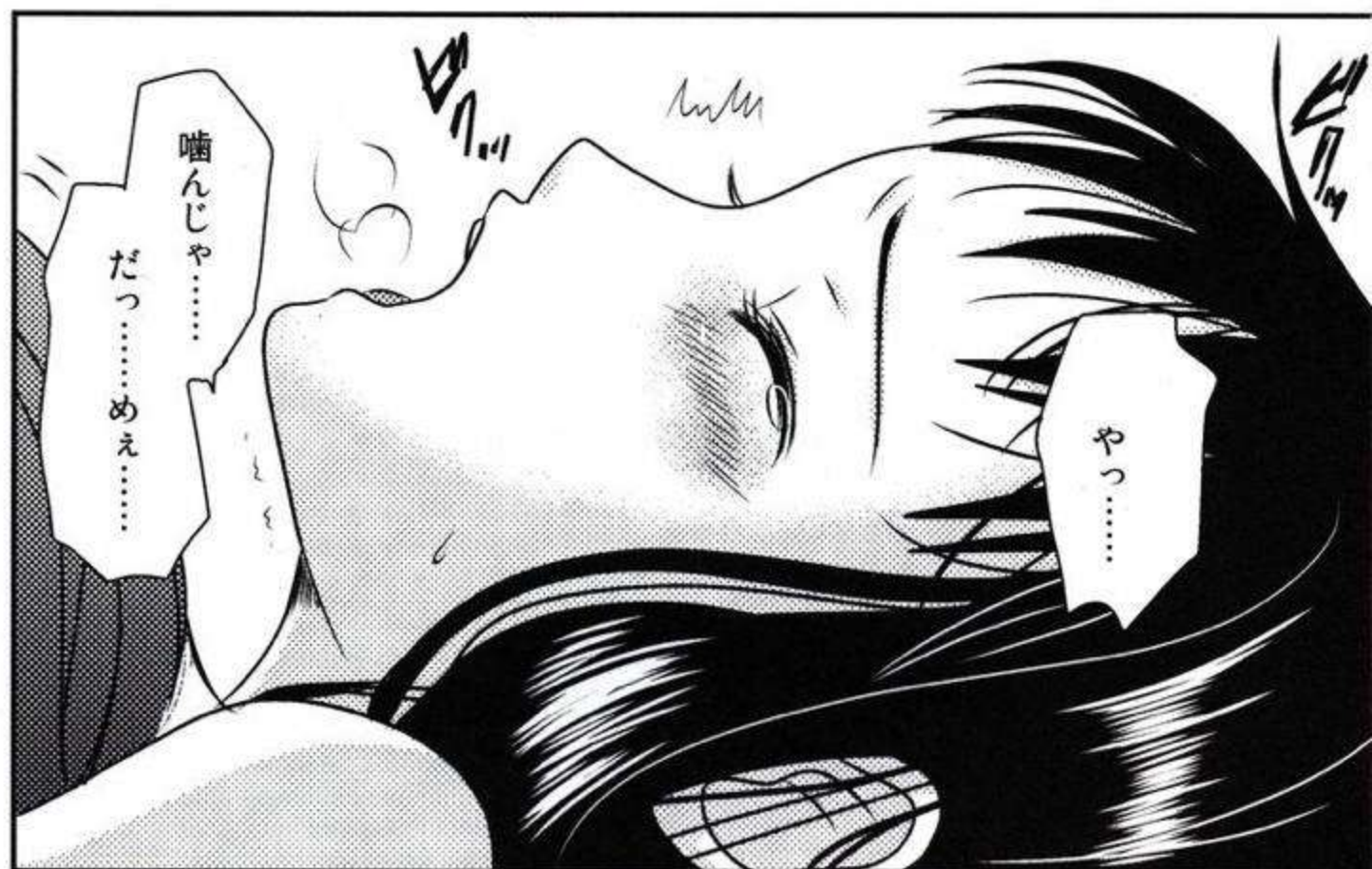
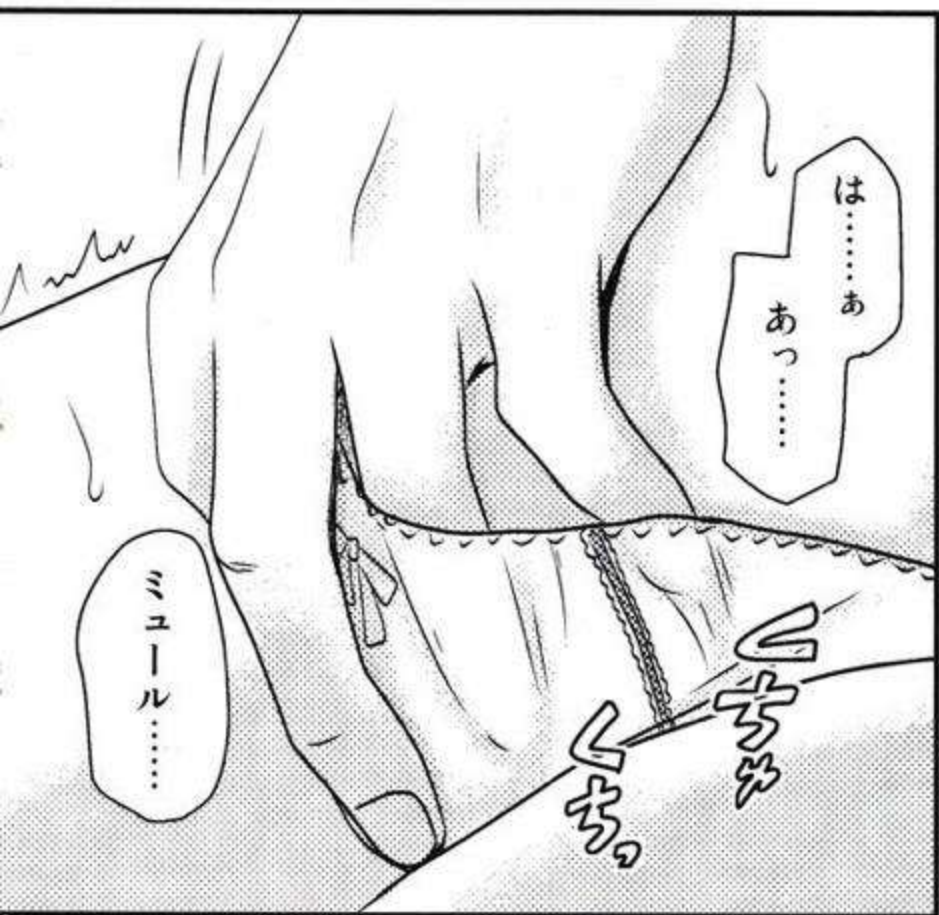
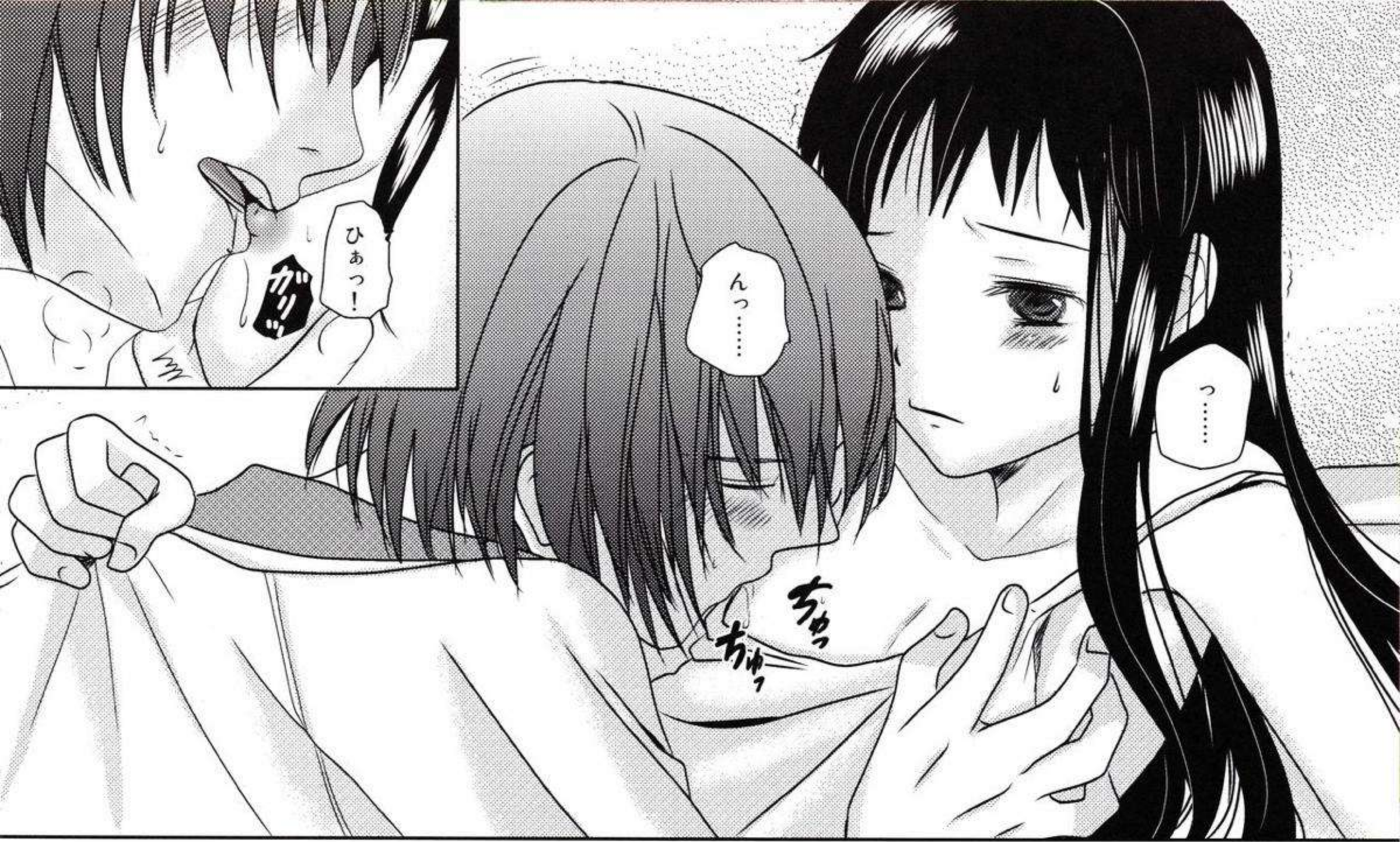
俺は……  
ミユールのいい  
思い出になれるのかな……

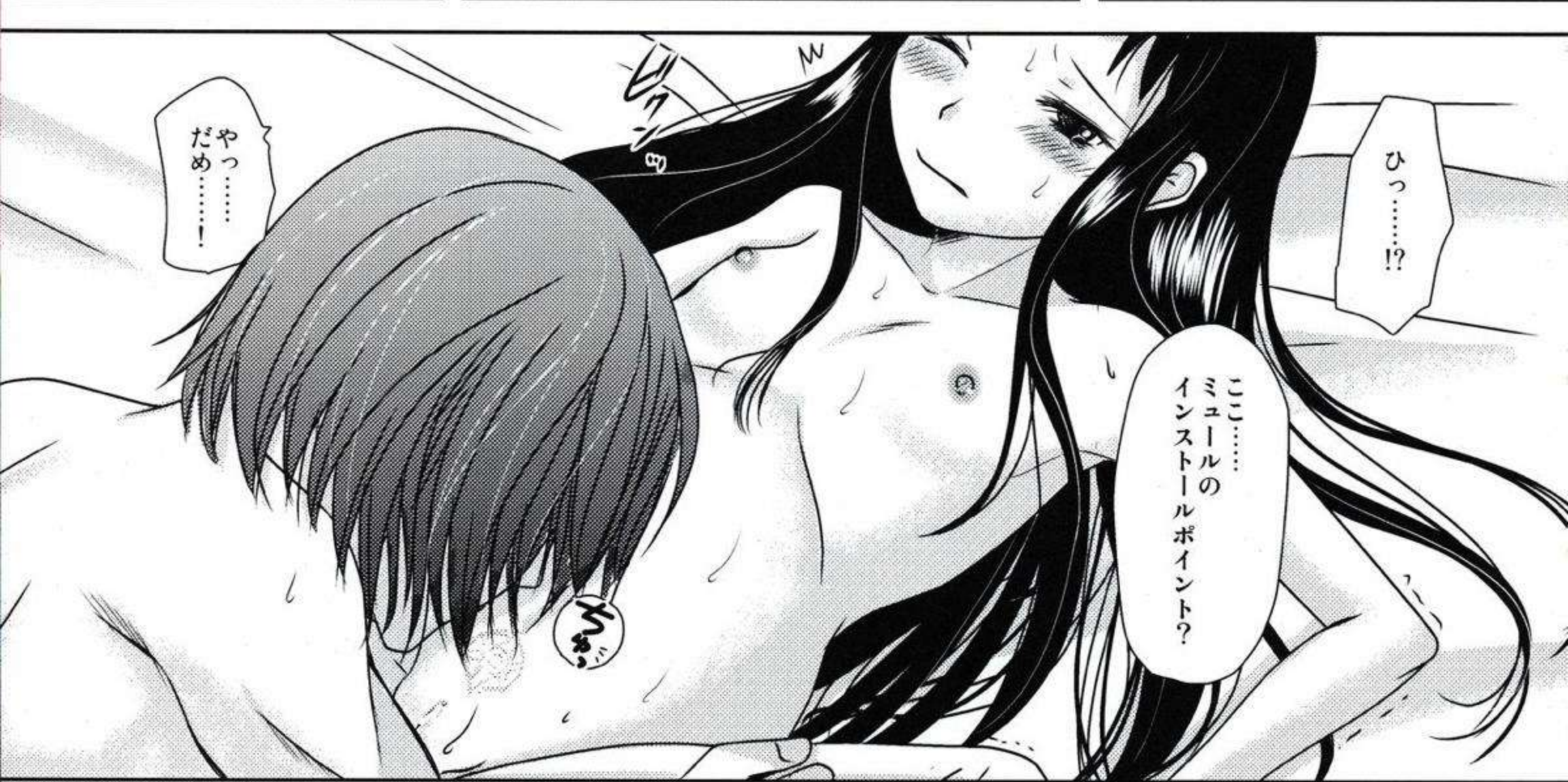
いい思い出たくさん  
作ってやれるのかな  
……って……

ん……

何も出来ない  
自分が情けなくて……  
不安になる……









イヤ……

いやあ……!!

大嫌いなニンゲン達に……  
いっぱい触られたんだ……?

やめっ……

ビク

ちゅっ  
ちゅっ

ビク  
ビク



んん……

ズル  
ズル

んんっ!!

くう……

んん……

ビク  
ビク



はあ……

はあ……

フッ……











ああ……

ミュールの事  
いっぱい傷つけて……

あ……

ミュールにいっぱい  
酷いことして……



彼女の何もかもを  
滅茶苦茶に壊してしまいたくなる

俺……  
ミュールの大嫌いな  
ニンゲンだよ……

あ……  
あ……



憎くて憎くてたまらない  
ニンゲンだよ……？

そんなニンゲンに  
抱かれるんだ？

や……いや……

大嫌いなニンゲンに……

う……



彼女の心を

俺は好きだよ……

う……ア

ミュールの全部……

叩き壊してバラバラにしてやりたくなる



ニンゲンが大嫌いな事も全部……

クロ……ア……

もっと……俺の名前呼んで……



クロア……!!

クロア……!!

クロアあつ!

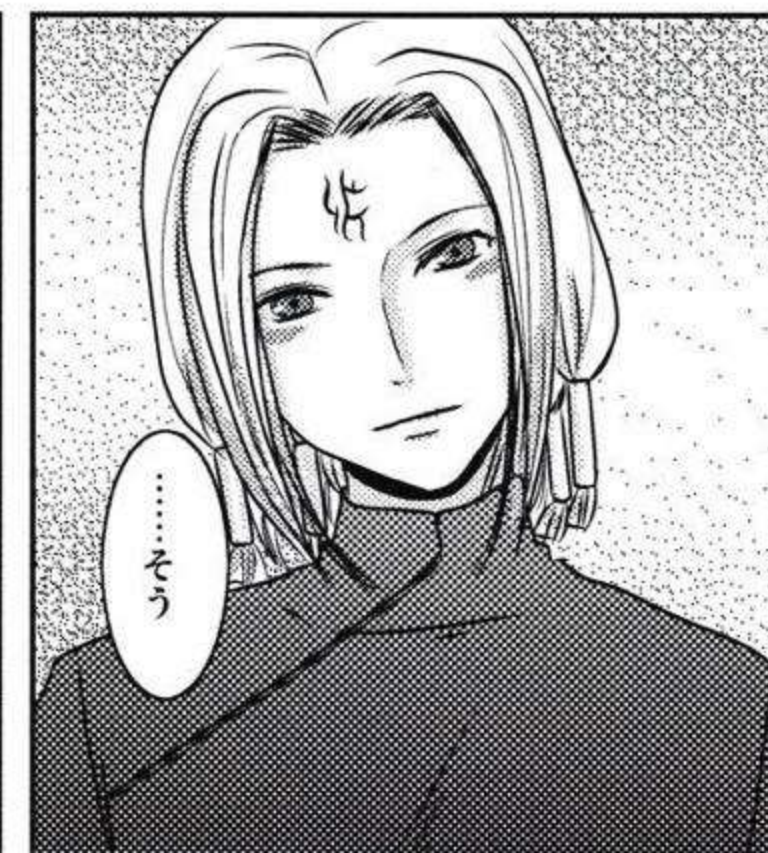
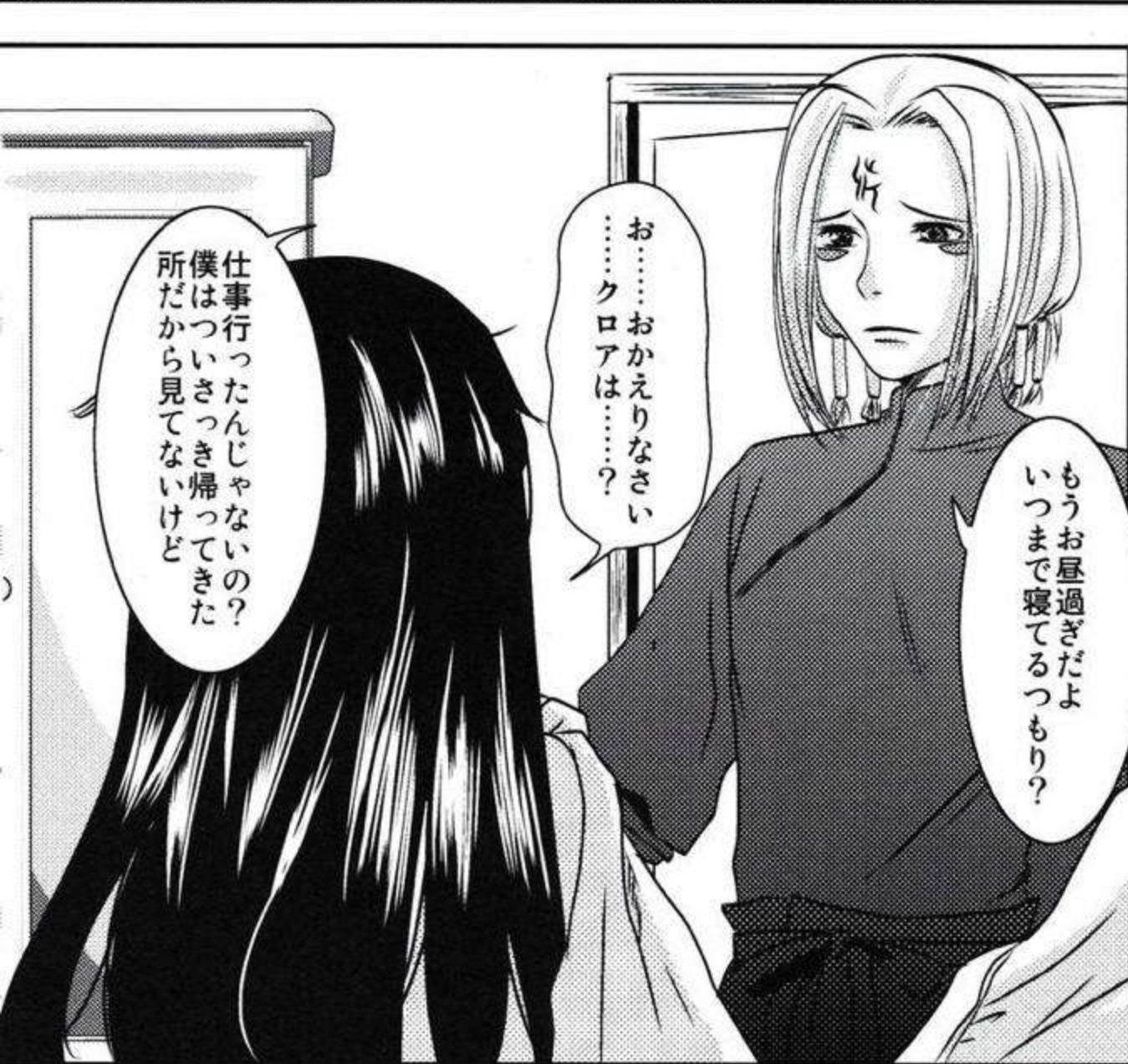










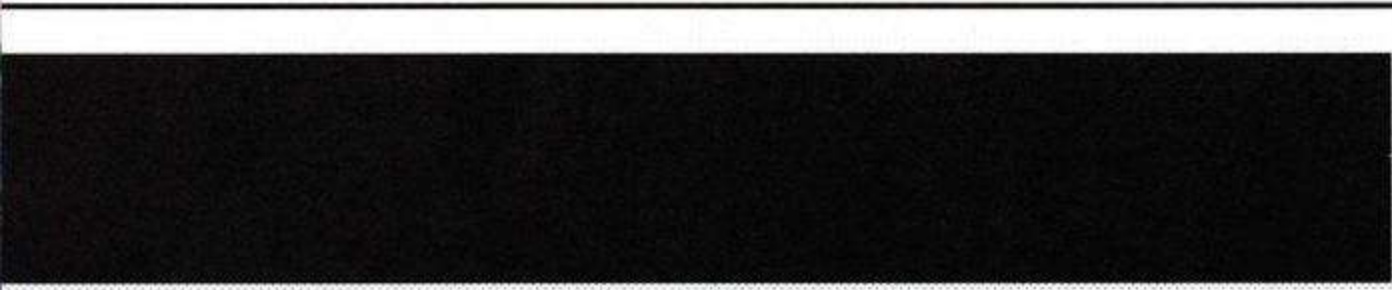




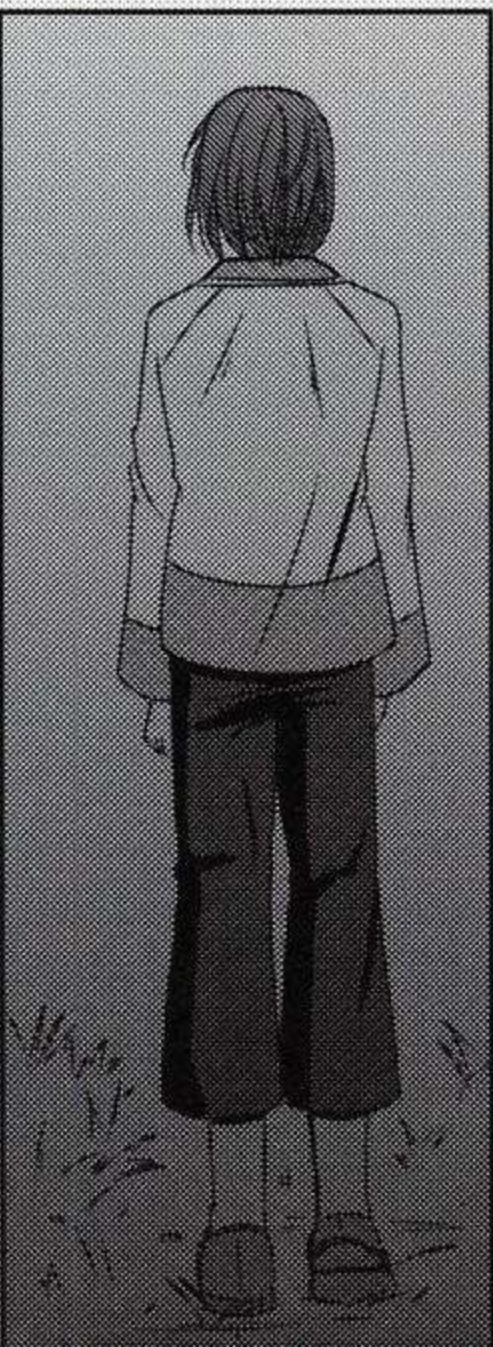
僕が口を出す  
問題じゃないけど

……

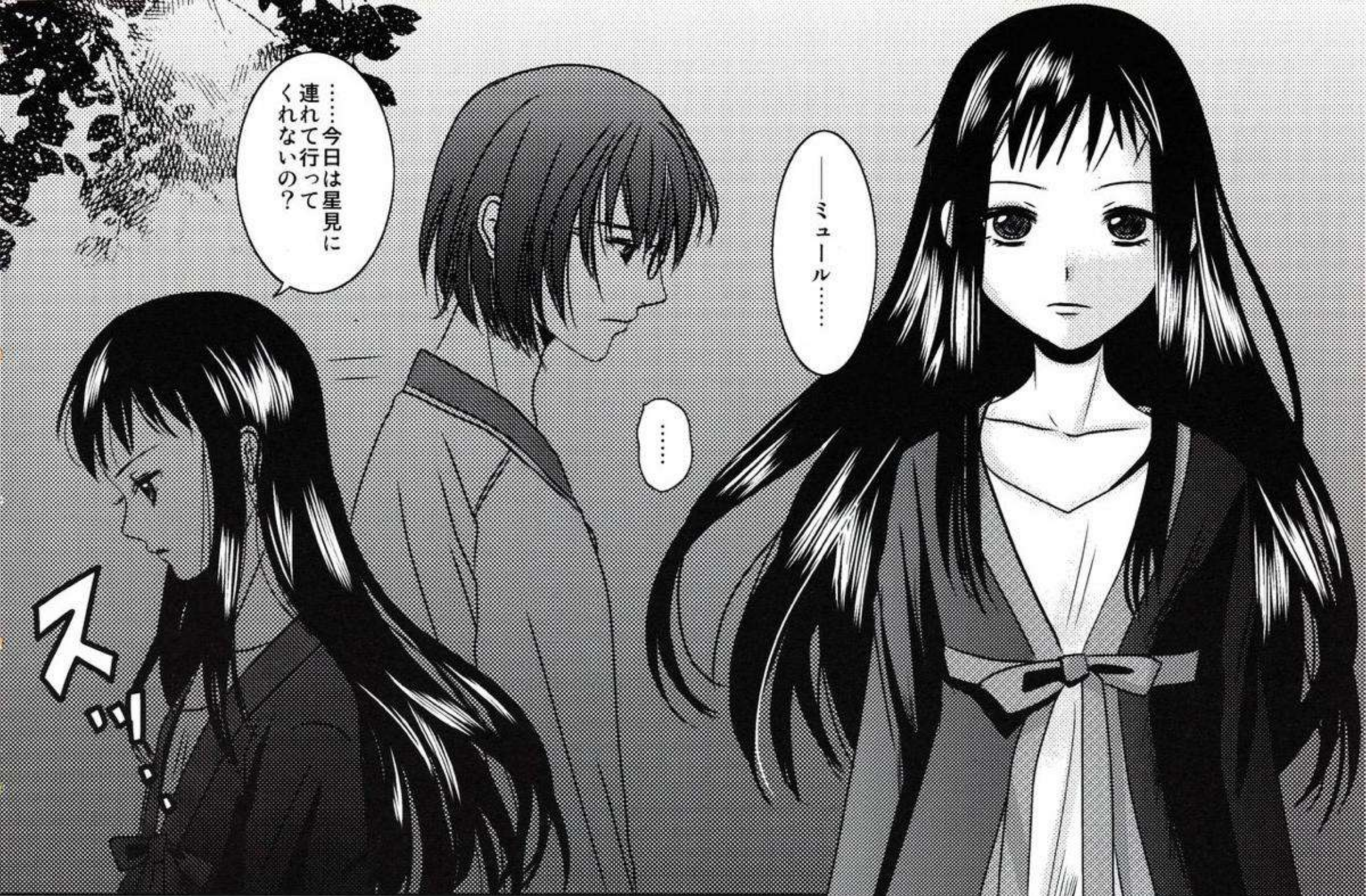
……クロア……



……あ……



あんまり母さんを  
泣かせるような  
真似するなら  
僕も考えないとね





私の心を……  
バラバラに壊せると  
でも思ってるの？

……自惚れるん  
じゃないわよ

グイッ



死ぬまで言っ  
てやらないから！

絶対言っ  
てやらない！



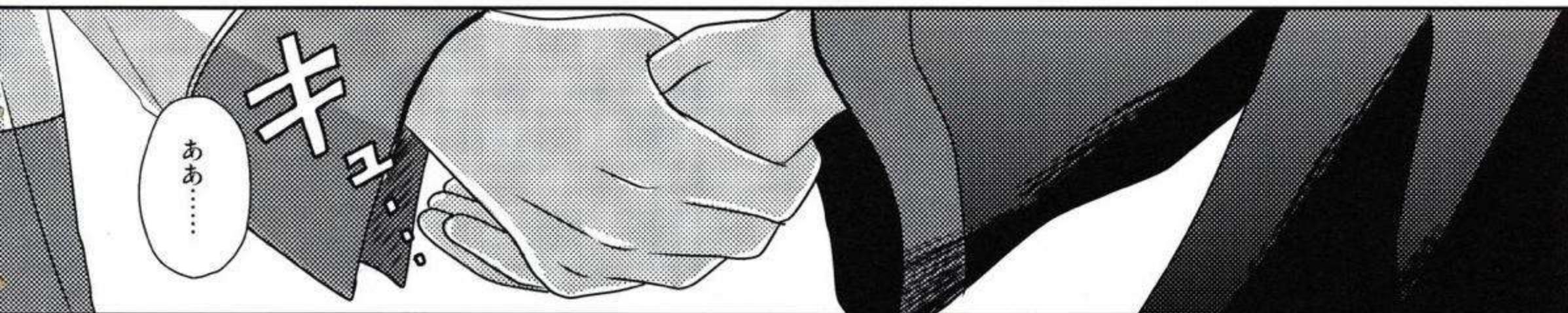
シュー……



絶対……好き  
言っ  
てやらないから……



……言ってやらないから……



ああ……

キュ



……言ってくれるまで  
……傍に居る……

だったら……  
尚更言ってやらない……!



絶対解放して  
やらない……

絶対……  
後悔させて  
やるんだから……

……うん……

最後まで離さない

彼女の心を抉り取って



その傷痕に俺のエゴを塗りこめて――

……好きだよ  
ミュール

そうやって 彼女を俺で満たしていく



星……  
見えないな……

……

俺が彼女にぶつける想いは

何て残酷で醜いものなんだろう

未来が砂の盃でもかまわない

溺れるくらいの甘露を 永遠に注ぎ続けてあげよう





## 砂の盃

発行 イヌドリルロリータエンジン (犬森サヤカ)  
発行日 2011年12月31日  
連絡先 inu@inudrill.sakura.ne.jp  
website <http://inudrill.com/>  
印刷所 フリーク

無断転載・複製・Web上へのアップロード等はしないでください



Inudrill Lolita Engine